



Juan Holgado y la muerte

Pues, señor, han de saber ustedes que ^{*1} había una vez un hombre que se llamaba ^{*2} Juan Holgado, y a fe que ^{*3} a nadie le pudo venir ^{*4} peor el nombre, porque el pobre ^{*5} no tenía más que ^{*6} la mañana y la tarde, ^{*7} tres cuartos de hambre y tres de necesidad.

Pero ^{*8} en cambio tenía ^{*9} un celemín de ^{*10} hijos, con unas tragaderas como tiburones.

^{*11} Díjole un día Juan Holgado a su mujer:

— Esas criaturas son ^{*12} un hato de ^{*13} tragaldabas capaces de engullir las estopas del óleo; ^{*14} no tomaría más sino comerme una liebre solo, a mi sabor, y sin estos ^{*14} alanos que de la boca me lo quitan.

Su mujer, que era una bendita ^{*15} (mejorando lo presente), por no

ゆとりのファンと死神

さて、こんなことがあったそうな。あるところに、ファン・オルガード、つまり、ゆとりのファン、という名の男がいた。この名前が彼ほど似合わぬものはまずいなかった。というのも、かわいそうにこの男はゆとりどころかないものだらけ、朝から晩までおなかをすかしていたからだ。

そのかわり山ほどたくさん子どもがいて、みながつがつと鮫のような食いしん坊だった。

ある日のこと、ゆとりのファンがおかみさんに言った。

「うちのちびどもときたら、油のしみたぼろきれだって丸のみにしかねない大食い連中だ。口元から食べものがかっさらっていくこの犬っころたちぬきで、せめてウサギ1匹、わし好みに料理したのを腹一杯食えたら、ほかにはもう何もいらぬよ」

おかみさんは、それは気だてのよい人で（あなたは別格ですが）、夫が

- * 1. han de saber ustedes que ⇒ 〈haber de + 不定詞〉は義務を表し、「みなさんは〜を知るべきです」という意味の語りだし。→「こんなことがあったそうな」。
- * 2. Juan Holgado ⇒ holgado は形容詞で「(服などが)ゆったりした」「経済的余裕がある」を意味するが、ここでは名字(姓)。「ゆとりのファン」と訳出するがあだ名ではない。
- * 3. a fe que ⇒ 後に続く文を強調する。「ほんとうに」。
- * 4. a nadie le pudo venir peor ⇒ venir mal は「似合わない」。比較級 peor により「誰も彼以上に似合わなくはなれなかった」。つまり「彼がその名にもっとも似合わない」を意味する文。
- * 5. el pobre ⇒ pobre はここでは「貧しい」でなく「かわいそうな」。「かわいそうな男」。
- * 6. no tenía más que ⇒ 〈否定語 + más que ...〉で「〜しか(ない)」「〜しか持っていなかった」。
- * 7. tres cuartos de hambre y tres de necesidad ⇒ necesidad は「窮乏」の意味で、直訳すると「3/4の空腹と3/4の窮乏(しか持っていなかった)となり、分数を

- 足すと1を超えるユーモラスで大きな表現。
- * 8. en cambio ⇒ そのかわりに。反対に。
- * 9. un celemín de ⇒ ひと山の。celemín はもともとは穀類などを測る単位。
- * 10. tragaderas ⇒ 大食。後出の tragaldaba「大食漢」同様、tragar「飲み込む」からくる。
- * 11. Díjole ⇒ le dijo と同じ。文頭などで人称代名詞を動詞の後ろにつける古い用法。
- * 12. un hato de ... ⇒ (軽蔑的に)〜の集まり。
- * 13. no tomaría más sino comerme ... ⇒ tomaría は非現実的な推量の過去未来で「これ以上飲食しないだろう」。sino ... は「〜のほかは」の意味で、「(もし)存分に食べるならそのほかは」(p.249 参照)。→「〜を腹一杯食えたら、ほかにはもう何もいらぬよ」。
- * 14. alanos ⇒ マスティフ犬。攻撃的な性質で、ここでは「子どもたち」の比喩。
- * 15. mejorando lo presente ⇒ 第三者を褒める際に相手を気遣う丁寧表現で「あなたは別格ですが」。ここでは bendito「祝福された」「素晴らしい」という褒め言葉の後で。

同じ言葉を必要以上に繰り返すのを避けるために、すでに了解されているものを代名詞で表したり、わかっている主語は省略したり、といったことが行われます。同じように、2度目の名詞も省略されることがよくあります。ここではそのような省略の形を確認しておきましょう。

定冠詞に前置詞が続くとき

〈定冠詞+前置詞〉の形は、あいだに何らかの名詞が省略されていると考えます。定冠詞の性数から判断がつき、直前にある場合がほとんどです。

- ◆ **pues este bálsamo tiene una gran virtud, que es la de hacer resucitar a los muertos.** [Caballero]
何しろこの香油には大いなる力があり、死者を生き返らせることができるのだから。
- ◆ **Me volví, estaba incorporada en la cama, con ojos de susto, como los de una enferma que se despierta y aún no ve nada ni sabe dónde está ni por qué se siente tan confusa.** [Marías]
振り返ると、妻は驚いた目をしてベッドの上で上半身を起こしていた。目をさましたけれど、何も見えておらず、自分がどこにいるか、なぜそんなにぼうっとしているのかわかっていない病人の目だった。

定冠詞つきの形容詞

〈定冠詞+形容詞〉も名詞が省略された形と見て、指し示す名詞が何であるかを確認するようにしましょう。

- ◆ **y los vi allá abajo, nadando apresurados hasta el centro del río para salvar una rata de agua, pues la pobre parece que estaba enferma y no podía nadar.** [Arenas]
下の方でその子たちがカワネズミを救出しようとして、川の真ん中に向かってあわてて泳いでいくのが見えた。かわいそうなネズミはどうやら病気で、泳げなかったんだ。

- ◆ **A las dos noches, regresó. Como la anterior, repitió la actuación y, así, varias noches más, la última ya a la semana.** [Llamazares]

二日後の晩、彼はまたやってきた。前の晩と同じことを繰り返して、そんなふうには、さらに幾晩かやってきて、それは一週間に及んだ。

→ la anterior は la noche anterior、la última は la última noche のこと。

- ◆ **y para mí ya era familiar la gente, tanto la del pueblo como la forastera.** [Llamazares]

参加者は土地の者もよそから来た人間もみな顔なじみだった。

→ gente の省略は2回。最初は前置詞とのあいだ、次は形容詞とのあいだに補って読む。

otro に気をつける

otro 「ほかの、もうひとつの」という形容詞の場合は、前提となるひとつめのもの(名詞)をおさえます。

- ◆ **La rata corría de un extremo a otro del rincón,...** [Arenas]
ネズミはせまい隅っこの端から端へと駆けずりまわっていたけど、
- ◆ **Apenas asoma por el brocal del pique uno de los ascensores, cuando un doble campanillazo le avisa que, abajo, el otro espera ya con su carga completa.** [Lillo]
一台のリフトが坑道口から顔を出すなり、カンカンと銅鑼が鳴り、ぎっしりと荷を積んだ別のリフトが下で待っていることを告げる。

対になる表現

- ◆ **Hay momentos en que, merced a una serie de abstracciones, el espíritu se sustrae a cuanto le rodea, (...). Hay otros en que se desliga de la carne, pierde su personalidad y se confunde con los elementos de la Naturaleza,...** [Bécquer]

一連の物思いにふけるうちに、精神がまわりのすべてから離れて(…)する瞬間がある。また時には反対に、精神が肉体から離れ、人格を失って自然の一部と混じりあい(…)するときがある。

→ 対になった形を見抜くことがポイント。